



(様式第 9)

事総務 第 25-126 号  
平成 25 年 10 月 2 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 藤井 清孝

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第 10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第 11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	119 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照（様式第 12）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照（様式第 13）

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	503人	79人	513.1人	看護補助者	73人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	1人	3人	1.3人	理学療法士	24人	臨床検査技師	111人
薬 剤 師	58人	1人	58.3人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	4人	0人	4.0人	視能訓練士	13人	その他	0人
助 産 師	42人	0人	42.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,015人	27人	1028.6人	臨床工学技士	31人	医療社会事業従事者	10人
准 看 護 師	2人	0人	2.0人	栄 養 士	4人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	0人	0人	0.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	209人
管理栄養士	22人	0人	22.0人	診療放射線技師	64人	その他の職員	118人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	775.6 人	0 人	775.6 人
1日当たり平均外来患者数	2444.4 人	0 人	2444.4 人
1日当たり平均調剤数	2,112 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	138人	・膿疱性乾癬	14人
・多発性硬化症	94人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	162人	・原発性胆汁性肝硬変	39人
・全身性エリテマトーデス	683人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	65人
・再生不良性貧血	60人	・混合性結合組織病	91人
・サルコイドーシス	84人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・特発性間質性肺炎	25人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	470人	・網膜色素変性症	42人
・特発性血小板減少性紫斑病	137人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	66人	・肺動脈性肺高血圧症	20人
・潰瘍性大腸炎	69人	・神経線維腫症	13人
・大動脈炎症候群	36人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	27人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	53人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	42人	・ライソゾーム病	18人
・クローン病	25人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	258人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	4人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靭帯骨化症	21人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	96人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェグナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	162人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	34人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	89人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設協働研究	田邊 聡	消化器内科	30万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相関性と相違性から見た包括的研究	小林清典	消化器内科	50万円	補委 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業
食道癌EMR症例におけるヨード不染帯をバイオマーカーにした多発がん発生のリスクと多発がん発生までの期間の検討に関する多施設共同前向きコホート研究	堅田親利	消化器内科学	50万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業

計 3件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Chemother Pharmacol. 2012 Feb;69(2):407-13.	A multicenter phase II study of combined chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1 in patients with unresectable or recurrent gastric cancer (KDOG 0601).	小泉 和三郎	消化器内科学
J Gastroenterol. 2012 Feb;47(2):118-26.	Long-term administration of PPI reduces treatment failures after esophageal variceal band ligation: a randomized, controlled trial.	日高 央	消化器内科学
Toxicol Appl Pharmacol. 2012 Feb 15;259(1):104-14.	Thromboxane A(2) receptor signaling promotes liver tissue repair after toxic injury through the enhancement of macrophage recruitment.	南野 勉	消化器内科学
Endoscopy. 2012 Jun;44(6):584-9.	Propofol sedation with bispectral index monitoring is useful for endoscopic submucosal dissection: a randomized prospective phase II clinical trial.	佐々木 徹	消化器内科学
Laryngoscope. 2012 Jun;122(6):1291-6.	Risk of superficial squamous cell carcinoma developing in the head and neck region in patients with esophageal squamous cell carcinoma	堅田 親利	消化器内科学
J Gastroenterol. 2012 Sep;47(9):1030-5.	Portal hemodynamic effects of sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma: a prospective cohort study.	日高 央	消化器内科学
World J Gastroenterol. 2012 Oct 14;18(38):5412-7.	Argon plasma coagulation for superficial esophageal squamous-cell carcinoma in high-risk patients.	田原 久美子	消化器内科学
Gastroenterol Res Pract. 2012	Comparison of Diagnostic Accuracies of Various Endoscopic Examination Techniques for Evaluating the Invasion Depth of Colorectal Tumors.	春木 聡美	消化器内科学
World J Gastroenterol. 2013 Mar 21;19(11):1728-35.	Short-type single balloon enteroscope for endoscopic retrograde cholangiopancreatography with altered gastrointestinal anatomy.	山内 浩史	消化器内科学

計 9件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Kv1.3移入繊維芽細胞による不全心筋の活動電位再生と逆リモデリング誘導の研究	庭野慎一	循環器内科	117万	補委 独立行政法人日本学術振興会
				補委

計 1件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol 2012; 157: 197-206.	Combined Effects of Up- and Downstream Therapies on Atrial Fibrillation in a Canine Rapid Stimulation Model.	Fukaya H, <u>Niwano S</u> , Niwano H, Izumi T.他5名	循環器内科
J Arrhythmia 2012; 28, 34-40.	Long-term Observation of Fibrillation Cycle Length under Angiotensin II Receptor Blocker Therapy in Patients with Chronic Atrial Fibrillation.	Kishihara J, <u>Niwano S</u> , Niwano H, Izumi T.他6名	循環器内科
Circ J 2012; 76: 303-304.	Multicenter study of prevalence and distribution of sarcomeric gene mutations in familial hypertrophic cardiomyopathy. A milestone to the genetic diagnosis in Japanese population.	<u>Niwano S</u> .	循環器内科
Circ J 2012; 76: 481-507.	Guidelines for Risks and Prevention of Sudden Cardiac Death (JSC2010)	Aizawa Y, Horie M, <u>Niwano S</u> , Nohara R, Sasaki S, Shoda M.他21名	循環器内科
Int Heart J 2012; 53, 139-145.	Cardioprotective effects of sarcolemmal and mitochondrial K-ATP channel openers in an experimental model of autoimmune myocarditis. - Role of the reduction in calcium overload during acute heart failure-	<u>Niwano S</u> , Hirasawa S, Masuda T, Izumi T.他4名	循環器内科
J Arrhythmia 2012; 28, 207-213.	Usefulness of ST elevation score in vector-projected virtual 187-ch ECG for the risk stratification of Brugada-type ECG patients.	Ishikawa S, <u>Niwano S</u> , Kishihara J, Izumi T.他5名	循環器内科
J Cardiology 2012; 60, 36-41.	Evaluation of the impact of atrial fibrillation on the rehospitalization events in heart failure patients in recent years.	Murakami M, <u>Niwano S</u> , Koitabashi T, Izumi T.他6名	循環器内科
Kitasato Med J 2012; 42, (in press).	Usefulness of Upstream Therapy with Renin-Angiotensin System Inhibitors for Prevention of New Onset Atrial Fibrillation in Patients with Heart Failure.	Murakami M, <u>Niwano S</u> , Satoh A, Izumi T.他4名	循環器内科
Europace 2012; 14, 1206-14.	Angiotensin II-mediated Up-regulation of Connective Tissue Growth Factor (CTGF) Promotes Atrial Tissue Fibrosis in the Canine Atrial Fibrillation Model.	Kiryu M, <u>Niwano S</u> , Niwano H, Izumi T.他4名	循環器内科



J Cardiol Case 2012; 6: e35-e38.	Possibility of pharmacological therapy for mitochondrial diseases.	Niwano S.	循環器内科
Int Heart J 2012; 53, 276-81.	Prediction of inappropriate implantable cardioverter-defibrillator therapies through parameters obtained in a simple cardiopulmonary exercise stress test.	Satoh A, Niwano S, Niwano H, Izumi T. 他5名	循環器内科
J Arrhythmia 2012; 28: 263-272.	Actual conditions of implantable defibrillation therapy over 5 years in Japan.	Shimizu A, Nitta T, Niwano S, Watanabe S, Okumura K. 他6名	循環器内科

計 12件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マウスフローセモデルの確立	鎌田貢壽	腎臓内科	701,000	補委 神奈川県衛生部
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 2013 (36)	Effects of valsartan on progression of kidney disease in Japanese hypertensive patients with advanced, predialysis, chronic kidney disease: Kanagawa Valsartan Trial (KVT)	Kouju Kamata	腎臓内科
腎と透析 73 (6)	慢性腎臓病を伴う2型糖尿病患者におけるアログリプチンの臨床的効果	牧野武志	腎臓内科
日本腎臓学会誌 54 (4)	混合性結合組織病(MCTD)に抗好中球細胞質抗体(ANCA)陰性のpauci-immune型壊死性糸球体腎炎を合併した1例	林みゆき	腎臓内科
腎と透析73 別冊	再燃性MRSA腹膜炎を発症したPD歴20年の患者の一例	牧野武志	腎臓内科
腎炎症例研究29	好酸球増多症、MPO-ANCA陽性を認め、著しい好酸球浸潤を伴う尿細管間質性腎炎、半月体形成性糸球体腎炎を呈した一例	若新芙美	腎臓内科

計5

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究	荻野美恵子	神経内科	320万円	補委 厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業
神経免疫疾患に関する調査研究	荻野美恵子	神経内科	85万円	補委 厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業
新規の孤発性ALSマウスモデルの作製	永井真貴子	神経内科	150万円	補委 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金 基盤研究(c))
				補委
				補委
				補委
				補委

計 3

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Amyotroph Lateral Scler.	Tracheostomy with invasive ventilation for ALS patients: Neurologists' roles in the US and Japan.	Mieko Ogino	神経内科
Amyotroph Lateral Scler.	Reduction rate of body mass index predicts prognosis for survival in amyotrophic lateral sclerosis: a multicenter study in Japan.	Mieko Ogino	神経内科
J Neural Transm	Loss of DARPP-32 and calbindin in multiple system atrophy.	Mochizuki H	神経内科
Mov Disord.	Lewy body pathology in a patient with a homozygous parkin deletion.	Miyakawa S	神経内科

計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己免疫疾患における病原性自己抗体の産生機序の解析	廣畑 俊成	膠原病感染内科	120万	補委 文部科学省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病感染内科	100万	補委 厚生労働省
成人スティル病の実態調査	廣畑 俊成	膠原病感染内科	68.9万円	補委 東京都福祉保健局
生体防御系反応性異常疾患群の機能調節を目指した治療の開発	廣畑 俊成	膠原病感染内科	50万	補委 文部科学省
混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究	田中 住明	膠原病感染内科	140万	補委 厚生労働省
				補委
				補委

計 5

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol	Clinical characteristics of neuro-Behçet's disease in Japan: a multicenter retrospective analysis.	Hirohata S, Kikuchi H, Sawada T, Nagafuchi H, Kuwana M, Takeno M, Ishigatsubo Y.	膠原病感染内科
Proc Natl Acad Sci U S A.	IgA and IgG antineutrophil cytoplasmic antibody engagement of Fc receptor genetic variants influences granulomatosis with polyangiitis.	Kelley JM, Monach PA, Ji C, Zhou Y, Wu J, Tanaka S, et al.	膠原病感染内科
PLOS ONE	Association of Increased Frequencies of HLA-DPB1 *05:01 with the presence of Anti-Ro/SS-A and Anti-La/SS-B Antibodies in Japanese Rheumatoid Arthritis and Systemic Lupus Erythematosus Patients.	Furukawa H, Oka S, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Nagai T, Hirohata S, et al	膠原病感染内科
Intern Med.	Changes in Biomarkers Focused on Differences in Disease Course or Treatment in Patients with Neuro-Behçet's Disease.	Hirohata S, Kikuchi H.	膠原病感染内科
Arthritis Rheum.	IgG anti-NR2 glutamate receptor autoantibodies from patients with systemic lupus erythematosus activate endothelial cells.	Yoshio T, Okamoto H, Hirohata S, Minota S.	膠原病感染内科
J Clin Invest.	Histamine-releasing factor has a proinflammatory role in mouse models of asthma and allergy.	Kashiwakura JC, Ando T, Matsumoto K, Kimura M, et al	膠原病感染内科
Clin Exp Nephrol	Anti-ribosomal P antibodies and lupus nephritis.	Hirohata S	膠原病感染内科

臨床免疫学会誌	新規に生じた心雑音により心炎の合併を同定し得た高齢発症のリウマチ熱の1例	有沼良幸、菊地弘敏、荒巻芸、高山真希、浅子来美、廣畑俊成	膠原病感染内科
Mod Rheumatol	Role of FK506 binding protein 5 (FKBP5) in osteoclast differentiation.	Kimura M, Nagai T, Matsushita R, Hashimoto A, Miyashita T, Hirohata S.	膠原病感染内科
Arthritis Rheum	Anti-NR2 glutamate receptor auto-IgG antibodies from patients with systemic lupus erythematosus activate endothelial cells.	Yoshio T, Okamoto H, Hirohata S, Minota S	膠原病感染内科

計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自殺未遂者等の地域支援ネットワーク構築に関する研究事業	山本賢司	精神神経科	42万円	補 委	相模原市
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神医学	うつ病の身体症状と精神症状の関連について	乾真美	精神科学
救急医学	身体合併症を有する精神疾患患者の診療システム	山本賢司	精神科学
The Kitasato Medical Journal	Suicide and suicidal behavior among young people in a suburban area of Tokyo : association with clinical characteristics and antidepressants	Masami Inui-Yukawa	精神科学
The Kitasato Medical Journal	Predictors of psychological distress in breast cancer patients after surgery	Yuki Nakatani	精神科学
救急医学	自殺未遂者ケアの現状「身体合併症を有する精神疾患患者の診療システム」	山本賢司	精神科学
Modern Physician	「がん患者のリエゾン・コンサルテーション」緩和ケア医療の動向	山本賢司	精神科学
心と社会	「精神科の薬の適切な使い方」主な薬の効きめと副作用	山本賢司	精神科学

計 7

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
動体追跡医学研究	早川 和重	放射線治療科	300,000	補 委 文科省科学研究費 補助金基盤研究 (A)
腫瘍免疫に基づくアブスコパル効果の 解明と画期的な放射線治療戦略の開 発	新部 譚	放射線治療科	200,000	補 委 文科省科学研究費 補助金基盤研究 (C)
確率論的アプローチによる前立腺癌 の腫瘍制御確率モデルの開発	石山 博條	放射線治療科	1,200,000	補 委 文科省科学研究費 補助金基盤研究 (B)
放射線治療を含む標準治療確率のた めの研究	早川 和重	放射線治療科	100,000	補 委 厚生労働省がん研 究助成金(伊藤班)
				補 委

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Nucl Med.	EORTC QLQ-BM22 and QLQ-C30 quality of life scores in patients with painful bone metastases of prostate cancer treated with strontium-89 radionuclide therapy.	Kurosaka S, Hayakawa K, et al	放射線治療科
Med Dosim.	Matched-pair analysis and dosimetric variations of two types of software for interstitial permanent brachytherapy for prostate cancer.	Ishiyama H, Hayakawa K, et al	放射線治療科
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Phase I results of vinorelbine with concurrent radiotherapy in elderly patients with unresectable, locally advanced non-small-cell lung cancer: West Japan Thoracic Oncology Group (WJTOG3005-D1).	Harada H, Hayakawa K, et, al	放射線治療科
Magn Reson Imaging.	Diffusion-weighted imaging of local recurrent prostate cancer after radiation therapy: comparison with 22-core three-dimensional prostate mapping biopsy.	Hara T, Hayakawa K, et al	放射線治療科
Auris Nasus Larynx.	Clinical outcome of supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy: Radiation failure versus previously untreated patients.	Nakayama M, Hayakawa K, et al	放射線治療科
Pulm Med.	Radiotherapy for oligometastases and oligo-recurrence of bone in prostate cancer.	Tabata K, Hayakawa K, et al	放射線治療科

計 6件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Magnetic Resonance Imaging	Diffusion-weighted imaging of local recurrent prostate cancer after radiation therapy: comparison with 22-core three-dimensional prostate mapping biopsy	Toshimasa Hara	放射線画像診断科

計 1

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌分子標的フォスファターゼとラス遺伝子の治療可能性について検討	渡邊 昌彦	外科	220万	補 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
胃癌の腹水微量癌細胞の分子生物学的診断法の開発	菊池 史郎	外科	80万	補 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
大腸癌におけるHOPXの治療標的の可能性	大木 暁	外科	160万	補 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	渡邊 昌彦	外科	10万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	佐藤 武郎	外科	10万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験	菊池 史郎	外科	40万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Today	Laparoscopic surgery for colon cancer in obese patients: a case-matched control study.	中村 隆俊	外科
Surgical endoscopy	Laparoscopy versus open distal gastrectomy by expert surgeons for early gastric cancer in Japanese patients: short-term clinical outcomes of a randomized clinical trial.	桜本 信一	外科
BMC Cancer	Cancer specific promoter CpG Islands hypermethylation of HOP homeobox (HOPX) gene and its potential tumor suppressive role in pancreatic carcinogenesis.	藁谷 美奈	外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Recent trends in the management of achalasia.	片田 夏也	外科
Neoplasia	Epigenetic silencing of HOPX promotes cancer progression in colorectal cancer.	加藤 弘	外科
Annals of surgical oncology	Clinical significance of molecular detection of matrix metalloproteinase-1 in bone marrow and peripheral blood in patients with gastric cancer.	小坂 愉賢	外科
Anticancer research	Perineural Invasion and Preoperative Serum Ca19-9 as Predictors of Survival in Biliary Tract Cancer.	河又 寛	外科
癌と化学療法	術前化学療法の新展開 大腸癌に対する術前化学療法	佐藤 武郎	外科
癌の臨床	進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法の予後	佐藤 武郎	外科
癌と化学療法	広範な皮膚浸潤を伴う高齢者進行性乳癌手術の工夫	林 京子	外科
癌と化学療法	乳癌皮膚転移の疼痛に対するリドカイン含有ゼリーの使用経験	藁谷 美奈	外科

雑誌血管外科	感染性腹部大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術を施行した1例	大久保 博世	外科
--------	--------------------------------	--------	----

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
手術室映像配信システムを用いた医学教育に関する研究	北村 律	心臓血管外科	312,500	補委	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Thorac Cardiovasc Surg	Influence of surgical arch reconstruction methods on single ventricle workload in the Norwood procedure.	板谷 慶一	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg.	Death due to undetected heparin-induced thrombocytopenia after cardiac surgery.	山本 信行	心臓血管外科
Int Heart J.	Moderate prosthesis-patient mismatch may be negligible in elderly patients undergoing conventional aortic valve replacement for aortic stenosis.	北村 律	心臓血管外科
Pediatr Cardiol	Surgical removal of pulmonary arteriovenous malformations subsequent to total cavopulmonary connection conversion long after a Björk procedure.	小川 史洋	心臓血管外科
体外循環技術	エクセランKids長期使用時における性能に関する検討 従来使用品との比較	大島 弘之	心臓血管外科

計 5

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺癌個別化医療を目指した肺癌予後予測診断システムの構築	伊豫田 明	呼吸器外科	1,690,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
各種プロテオーム解析を用いた微乳頭構造を呈する肺腺癌特異的マーカーの獲得	佐藤 之俊	呼吸器外科	2,080,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 2

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Sci.	Thromboxane A2 receptor signaling facilitates tumor colonization through P-selectin-mediated interaction of tumor cells with platelets and endothelial cells.	Matsui Yoshio	呼吸器外科
Thorac Cardiovasc Surg.	Clinical Impact of Intraoperative Detection of Carcinoembryonic Antigen mRNA in Pleural Lavage Specimens from Non-small Cell Lung Cancer Patients.	Satoh Yukitoshi	呼吸器外科
Pediatr Cardiol	Surgical Removal of Pulmonary Arteriovenous Malformations Subsequent to Total Cavopulmonary Connection Conversion Long After a Bjork Procedure.	Ogawa Fumihiro	呼吸器外科

計 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
長深度光干渉断層計と貫通孔付きレンズを用いた有水晶体眼内レンズの有用性の検討	神谷和孝	眼科	2,080,000	補委 文科省
新しい調節性眼内レンズ開発を目的とした水晶体3次元の力学シミュレーション解析	川守田拓志	医療衛生学部	4,030,000	補委 日本学術振興会
				補委
				補委

計 2

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cataract Refract Surg.	Effect of Axis Orientation on Visual Performance in Astigmatic Eyes	小橋英長	大学院医療系研究科
Jpn J Ophthalmol.	Silicone intraocular lens surface calcification in a patient with asteroid hyalosis	松村一弘	眼科
Am Orthopt J.	A New Method for Quantifying Ocular Dominance Using the Balancing Technique	半田知也	医療衛生学部
J Glaucoma. (Epub)	Evaluation of Optic Nerve Head Using a Newly Developed Stereo Retinal Imaging Technique by Glaucoma Specialist and Non-Expert-Certified	浅川 賢	医療衛生学部
眼科手術	角膜前面後面放射状切開術後に内皮移植を施行した1例	佐藤信之	大学院医療系研究科
J Cataract Refract Surg.	Time course of refractive and corneal astigmatism after laser in situ keratomileusis for moderate to high astigmatism	五十嵐章人	眼科
J Cataract Refract Surg.	Five-year clinical study of patients with pseudophakic monovision	伊藤美沙絵	医療衛生学部
Am J Ophthalmol.	Intraindividual Comparison of Visual Performance After Posterior Chamber Phakic Intraocular Lens With and Without a Central Hole Implantation for Moderate to	清水公也	眼科
J Cataract Refract Surg.	Effects of tamsulosin and silodosin on isolated albino and pigmented rabbit iris dilators: Possible mechanism of intraoperative floppy-iris syndrome.	後関利明	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci.	Clinical evaluation of optical quality and intraocular scattering after posterior chamber phakic intraocular lens implantation.	神谷和孝	眼科
Curr Eye Res.	Effect of Aging on Optical Quality and Intraocular Scattering Using the Double-Pass Instrument.	神谷和孝	眼科
あたらしい眼科	緑内障における立体眼底写真による視神経乳頭解析パラメータとHumphrey視野計の視野指標との相関	加藤紗矢香	眼科
The Kitesato Medical Journal	A reduction of visual fields during changes in the background image such as while driving a car and looking in the rearview mirror	半田知也	医療衛生学部

Eye(Lond).	Clinical evaluation of the additive effect of diquafosol tetrasodium on sodium hyaluronate monotherapy in patients with dry eye syndrome: a prospective, randomized, multicenter study.	神谷和孝	眼科
臨床眼科	前眼部形状解析装置TMS-5による角膜径 (white to white) 測定の再現性と他機種との比較検討	藤原和子	眼科
J Cataract Refract Surg.	Early clinical outcomes, including efficacy and endothelial cell loss, of refractive lenticule extraction using a 500 kHz femtosecond laser to correct myopia	神谷和孝	眼科
臨床眼科	Hybrid monovisionの手術1年後の視機能評価 Visual function of hybrid monovision one year after surgery	飯田嘉彦	眼科
J Ocul Pharmacol Ther.	Effect of Fermented Bilberry Extracts on Visual Outcomes in Eyes with Myopia: A Prospective, Randomized, Placebo-Controlled Study	神谷和孝	眼科
日本視能訓練士協会誌	3D映像の現状と視機能検査・訓練応用 The present condition of three-dimensional films and utilization of three-dimensional technology in visual function tests and orthoptics procedures	半田知也	医療衛生学部
Jpn J Ophthalmol	Accommodative changes in human eye observed by Kitasato anterior segment optical coherence tomography	佐藤信之	大学院医療系研究科
PLoS One.	Three-year follow-up of posterior chamber toric phakic intraocular lens implantation for moderate to high myopic astigmatism.	神谷和孝	眼科

計 21

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
急性高度難聴に関する調査研究	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	80万	補 委	厚生労働省
前庭水管拡大症の臨床所見と遺伝子変異解析に基づく新診断基準作成	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	40万	補 委	厚生労働省
喉頭機能温存手術SCL-CHEP：音声・嚥下機能改善に向けた基礎研究と臨床応用	中山 明仁	耳鼻咽喉科	90万	補 委	文部科学省
ICG蛍光法を用いた頭頸部癌におけるセンチネルリンパ節同定の有効性に関する研究	宮本 俊輔	耳鼻咽喉科	100万	補 委	文部科学省
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cancer	Molecular imaging assisted surgery improves survival in a murine head and neck cancer model.	宮本俊輔	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Usefulness and pitfall of Narrow band imaging combined with magnifying endoscopy for detecting an unknown head and neck primary site with cervical lymph node metastasis	正来 隆	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Clinical outcome of supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy: radiation failure versus previously untreated patients.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Buccal fat augmentation for insufficient neoglottal closure after supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Jpn J Clin Oncol	Functional organ preservation for laryngeal cancer: Past, Present, and Future.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Laminin-5 immunohistochemical mapping for analysis of local extension in hypopharyngeal cancer: A preliminary report.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Otology&Neurotology	Quality of Life Reported by Patients With Idiopathic Sudden Sensorineural Hearing Loss.	佐野 肇	耳鼻咽喉科
頭頸部外科	側壁型中咽頭癌に対する経口腔手術Transoral Lateral Oropharyngectomy の有用性と限界	清野由輩	耳鼻咽喉科

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規p53標的遺伝子を用いた前立腺癌ワクチンの開発	佐藤威文	泌尿器科	1,300,000	補委	文部科学省
膀胱癌に対する抗体検出に付随する新規腫瘍マーカーの解析	松本和将	泌尿器科	1,600,000	補委	文部科学省
腫瘍随伴性腎細胞癌のプロテオーム解析	岩村正嗣	泌尿器科	1,300,000	補委	文部科学省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	佐藤威文	泌尿器科	300,000	補委	厚生労働省
去勢抵抗性前立腺癌に対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	松本和将	泌尿器科	1,000,000	補委	厚生労働省
腎細胞癌に対する研究	岩村正嗣	泌尿器科	200,000	補委	山形大学CROSS-J-RCC研究助成金
				補委	
				補委	

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOURNAL OF ENDOUROLOGY	Deaths within 12 months after 125I implantation for brachytherapy of prostate cancer: An investigation of radiation safety issues in Japan (2003-2010)	佐藤威文	泌尿器科
INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLO	C-reactive protein as a prognostic marker for advanced renal cell carcinoma treated with sunitinib	藤田哲夫	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology	小径腎腫瘍に対する腹腔鏡下腎部分切除術後腎機能に関する臨床的検討—無阻血・阻血手術の比較—	西盛宏	泌尿器科
腎移植血管外科	長期透析患者の腎移植における心・血管系合併症	吉田一成	泌尿器科
西日本泌尿器科	MVAC耐性再発・進行尿路上皮癌に対するテーラーメイド癌ペプチドワクチン療法の経験	松本和将	泌尿器科

計 5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究	海野信也	産科	14,400,000	補委 厚生労働省
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」	恩田貴志	婦人科	2,000,000	補委 文部科学省
婦人科悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	恩田貴志	婦人科	1,000,000	補委 国立がん研究センター
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	恩田貴志	婦人科	1,800,000	補委 厚生労働省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 4

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門

計 0

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ムコ多糖症Ⅱ型マウスにおける酸素補充療法と骨髄移植療法の比較検討	秋山 和政	北里大学小児科	45万円	補委 公益財団法人 森永奉仕会
川崎病の急性期のステロイド治療が遠隔期の血管における影響:血管形態および内皮機能の検討.	北川 篤史	北里大学小児科	90万円	補委 特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター
				補委
				補委

計 2件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatrics	Corticosteroid Pulse Combination Therapy for Refractory Kawasaki Disease:A Randomized Trial.	Ogata S	北里大学小児科
Current Medical Research&Opinion	Long-term outcomes of children and adolescents who had cerebral palsy with secondary osteoporosis.	Iwasaki T	北里大学小児科
Brain&Development	Progressive diffuse brain atrophy in West syndrome with marked hypomyelination due to SPTAN1 gene mutation.	Nonoda Y	北里大学小児科
Pediatrics	A Novel Strategy for Hemolytic Uremic Syndrome:Successful Treatment With Thrombomodulin $\alpha$ .	Honda T	北里大学小児科
小児内科	副(傍)咽頭間隙膿瘍を契機に発症したGrisel症候群(非外傷性環軸椎亜脱臼)の1例.	峰尾恵梨	北里大学小児科

計 5件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
$\beta$ -catenin/HIF-1 $\alpha$ シグナル系による卵巣発癌の分子機構の解明と早期診断システムの確立	松本 俊英	病院病理部	300,000	補委 北里大学医学部けやき会
Sox遺伝子による $\beta$ -カテニン転写ネットワーク制御と子宮内膜癌新規治療法への展開	三枝 信	病院病理部	2,210,000	補委 日本学術振興会
精巣特異的高発現を示すREV7の生殖細胞生存・増殖・分化における重要性の検討	村雲芳樹	病院病理部	1,560,000	補委 日本学術振興会
HDAC1結合蛋白による抗がん剤耐性機構に基づく新たな分子標的治療の開発研究	村雲芳樹	病院病理部	100,000	補委 日本学術振興会
紫外線障害に対する分子状水素を用いた新規予防法の開発と分子機構の解析	村雲芳樹	病院病理部	100,000	補委 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎バイオマーカーと治療標的としてのOLFM4の役割と分子基盤の解明	吉田 功	病院病理部	1,400,000	補委 日本学術振興会
				補委
				補委

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Oncol	Anti-HuC and -HuD autoantibodies are differential sero-diagnostic markers for small cell carcinoma from large cell neuroendocrine carcinoma of the lung.	松本 俊英	病院病理部
Exp Ther Med.	Overexpression of the miR-34 family suppresses invasive growth of malignant melanoma with the wild-type p53 gene.	山崎 等	病院病理部
Pathol Int	Mixed angiosarcoma, clear cell adenocarcinoma and mature teratoma elements in an ovarian tumor: a case report and literature review.	高橋 博之	病院病理部
Am J Pathol	Transcriptional up-regulation of Sox9 by NF- $\kappa$ B in endometrial carcinoma cells, modulating cell proliferation through alteration in the p14(ARF)/p53/p21(WAF1) pathway.	三枝 信	病院病理部
Lab Invest	Sox4 functions as a positive regulator of $\beta$ -catenin signaling through upregulation of TCF4 during morular differentiation of endometrial carcinomas.	三枝 信	病院病理部
Nat Commun.	The Dishevelled-associating protein Daple controls the non-canonical Wnt/Rac pathway and cell motility.	村雲芳樹	病院病理部
Toxicology	Exposure to 1-bromopropane induces microglial changes and oxidative stress in the rat cerebellum.	村雲芳樹	病院病理部

Am J Pathol.	Epidermal Hyperplasia and Appendage Abnormalities in Mice Lacking CD109.	村雲芳樹	病院病理部
Biochem Biophys Res Commun.	Similar phenotypes of Girdin germ-line and conditional knockout mice indicate a crucial role for Girdin in the nestin lineage.	村雲芳樹	病院病理部
Cancer Med.	Expression of RET finger protein predicts chemoresistance in epithelial ovarian cancer.	村雲芳樹	病院病理部

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	委託元
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床検査	院内で最も多く検出される多剤耐性菌”MRSA”	二本柳伸	臨床検査部
医学検査	北里大学病院におけるノロウイルス検査の取り組みおよび検出状況に関する検討	櫻井慶造	臨床検査部
Equilibrium Research	脊髄小脳変性症に対するTRH-T療法効果の重心動揺検査による短期間評価	村山真弓	臨床検査部
日本感染症学会誌	小児科病棟から分離されたLinezolid耐性Enterococcusfaecalisの分子疫学解析	二本柳伸	臨床検査部
日本感染症学会誌	全身性破傷風患者の創傷部から分離したClostridium tetaniの一症例	小貫智世	臨床検査部
神奈川県臨床衛生検査技師会誌	多剤耐性緑膿菌におけるMBL産生確認試験シカベータテストと従来法との比較検討	安達謙	臨床検査部
Clinical Laboratory	Changes of Proteases and Proteinase Inhibitors in Androgen-dependent Advanced Prostate Cancer Patients with $\alpha$ 2 Macroglobulin Deficiency. Clin Lab, 58: 217-225, 2012.	狩野有作	臨床検査部
International Journal of Oncology	Clinicopathological characteristic in Androgen-dependent Advanced Prostate Cancer Patients with $\alpha$ 2-macroglobulin Deficiency. Int J Oncol, 41: 39-45, 2012.	狩野有作	臨床検査部

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長	海野	信也
管理担当者氏名	事務部長	熊澤	豊彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理課 放射線部	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号（患者番号7桁）を設定。 中間桁分類法を採用し、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター一部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター一部 総務課 医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 熊澤 豊彦
閲覧担当者氏名	事務部次長 武石 年弘
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	85.6%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		26,173人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,394人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		4,183人
	D：初診の患者の数		38,019人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



## 規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢）  安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項  安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針  医療安全の確保を目的とした改善のための方策  医療事故発生時の対応に関する基本方針  医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針  患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：【リスクマネジメント委員会の開催】</p> <p>医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること  医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること  医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること  医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 72 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>リスクマネジメント研修会（内部講師による、全職員対象）  リスクマネジャー研修会（外部講師による、医療安全推進者を含む）  各種の医療安全研修会（医療KYT、コミュニケーション、分析手法、深部静脈血栓症  防止、血管外漏出、転倒・転落の防止、添付文書情報の読み方、他）  新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時）  復職医師・中途採用医師の随時研修、看護師のフォローアップ研修、その他</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施  リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施  改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、  マニュアルの改廃・作成、機器・器具類の改善等）</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任（6）名 兼任（3）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>リスクマネジメント委員会の運営に関する業務  医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務  医療安全のための職員研修に関する業務  医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務  患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務  医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務  医療訴訟、和解等に関する業務  その他</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：平成25年10月1日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定し、平成 22 年 2 月 24 日付、平成 24 年 2 月 22 日付で一部改定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針、指針の改廃手続を定めている。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：平成 24 年度 1 年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会 (ICC) は、原則として毎月第4水曜日午後 5 時から定例開催した。緊急対策会議の招集はなかった。</p> <p>(2) ICC の議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC 運営や院内感染対策チーム (ICT) などの運営に関する事、ICT 活動報告、定期報告、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告は、前月の分離菌・薬剤耐性菌や抗菌薬・消毒薬の使用状況、法令規定の感染症病原菌の検出状況、ウイルス抗原検査状況、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び病原体検出速報、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告、感染情報誌の発行報告などを行った。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：平成 24 年度 1 年分</p> <p>(1) 採用時研修は、新入職員は入職時年 1 回、中途採用の医師や看護師は随時実施した。 新規採用の看護師と研修医を対象とし、感染対策に関する講義と、手洗い・針刺し防止・防護具の着脱方法の実技演習を実施した。なお、研修医は、血液培養手順などの演習を追加した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は年 3 回開催した。全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各 3 回開催し、DVD の貸出聴講も実施した。</p> <p>(3) リンクスタッフを召集した会合は 9 回、この会合の中で感染対策の研修を 2 回実施した。</p> <p>(4) 医師を対象に「ICT と学ぶ感染症セミナー」を開催した (9 月 4 日)。</p> <p>(5) 結核のハイリスク部門の医師や看護師などを対象に N95 微粒子マスクのフィットチェックを実施した。</p> <p>(6) 手洗い検証セットを利用した「手洗い技術演習」を実施した。対象は全職員、速乾性擦式手指消毒薬に蛍光剤を添加、アルコール消毒時の手指衛生の適否を判定した後、手洗い技術を演習した。</p> <p>(7) 院内常駐の委託業者職員を対象に、「病院の環境衛生について」の研修会を開催した。</p> <p>(8) 院内ボランティアを対象に感染対策研修会を開催した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有 ・ 無 ) 平成 25 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 検査結果速報の整備 臨床検査部門や病院病理部門は、検査や診断の結果、保健行政機関への届出や院内の感染拡大を防止するために院内感染防止委員会が定めた病原体・耐性菌や抗体価の異常値を検出した場合は、その検査結果を検査依頼医・感染管理室・院内感染防止委員会委員長に速報 (検査結果速報) する体制。</p> <p>(2) 感染症・食中毒発生報告の整備 医師は、感染症や食中毒を診断した場合には報告書を感染管理室長・院内感染防止委員会委員長に報告する体制。</p> <p>(3) サーベイランスによる発生把握</p>	

手術部位感染、血管内留置カテーテル関連血流感染症、尿道留置カテーテル関連尿路感染症、人工呼吸器関連肺炎、その他のサーベイランスによる発生状況の把握

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 院内感染対策は、感染管理室を中心に対処・対策した。
- (2) 『院内感染防止対策の手引 2012 年版（第 19 次改訂版）』を平成 24 年 4 月 1 日付で発行した。
- (3) 毎週水曜日、ICU・小児病棟の感染症回診を、年間を通じて感染や病原体等に係る質問に対してコンサルテーションした。
- (4) ICT 活動は、毎週水曜日に抗菌薬・耐性菌や血液由来菌を対象とする抗菌薬ラウンド、木曜日は環境ラウンドを実施した。
- (5) 年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行時の対策、結核対策、食中毒対策（教職員や学生）などを実施した。
- (6) 『かんせん情報誌』を 6 回発行し、病原体や感染対策などに関する情報を情報提供した。
- (7) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』、『抗菌薬感受性率一覧』、『抗菌薬使用量』などを掲示し、24 時間の閲覧や情報提供に務めた。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について～導入にあたっての注意点～ 開催日：2012年6月27日 場所：救命救急病棟会議室 参加者：看護師5名 講師：小松 敏彰</li><li>・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について～導入にあたっての注意点～ 開催日：2012年7月13日 場所：臨床講義室 No.1 参加者：看護師35名，薬剤師3名，栄養士16名，ST 1名 講師：小松 敏彰</li><li>・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について～導入にあたっての注意点～ 開催日：2012年7月17日 場所：救命救急病棟会議室 参加者：看護師5名 講師：小松 敏彰</li><li>・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について～導入にあたっての注意点～ 開催日：2012年7月17日 場所：7C病棟 参加者：看護師7名，薬剤師1名 講師：小松 敏彰</li><li>・ 簡易懸濁導入にあたって 開催日：2012年7月18日 場所：7C病棟カンファレンスルーム 参加者：医師4名 講師：小松 敏彰</li><li>・ キット製剤の調製技術と化学（放射性医薬品） 開催日：2012年7月26日 場所：放射線部会議室 参加者：医師5名，放射線技師8名，薬剤師11名 講師：富士フィルムRIファーマ 占部 健一</li><li>・ 薬剤に関する基礎知識 開催日：2012年8月30日，31日（2回実施） 場所：臨床講義室 No.1 参加者：看護師88名，89名 講師：近藤 留美子</li><li>・ 持参薬に関しての基本的注意事項（38回実施） 開催日：2012年8月1日～10月20日 場所：各病棟カンファレンスルーム等 参加者：医師107名，看護師264名，その他19名 講師：各病棟担当薬剤師</li></ul>	

- NSAIDsの適正使用について  
開催日：2012年8月31日  
場所：臨床講義室 No.1  
参加者：看護師47名  
講師：佐々木 寿子
- 薬剤投与の基本的注意事項と正しい処方せんの手書きについて  
開催日：2012年9月15日  
場所：医学部M-31講義室  
参加者：研修医48名  
講師：小川 幸雄
- 抗凝固薬の適正使用  
開催日：2012年9月18日  
場所：臨床講義室 No.1  
参加者：看護師37名，薬剤師13名  
講師：坂倉 智子
- 中央手術室における薬品管理  
開催日：2012年10月1日  
場所：中央手術室内  
参加者：医師1名，研修医11名  
講師：友田 吉則
- TDM  
開催日：2012年10月29日  
場所：臨床講義室 NO.4  
参加者：臨床検査技師12名  
講師：友田 明子
- 中央手術室における薬品管理  
開催日：2012年11月1日  
場所：中央手術室内  
参加者：研修医6名  
講師：渡邊 浩嗣
- 脳死判定に影響を及ぼす薬剤  
開催日：2012年11月12日  
場所：臨床講義室 No.2  
参加者：移植コーディネーター1名，看護師11名，  
ソーシャルワーカー1名，ME1名，臨床検査技師1名  
講師：友田 明子
- 化学療法  
開催日：2012年11月16日  
場所：3Aナースステーション  
参加者：看護師7名  
講師：友田 明子
- 中央手術室における薬品管理  
開催日：2012年12月3日  
場所：中央手術室内  
参加者：医師1名，研修医2名  
講師：友田 吉則
- 中央手術室における薬品管理  
開催日：2013年1月4日  
場所：中央手術室内  
参加者：研修医7名  
講師：渡邊 浩嗣

- ・抗がん剤の安全対策  
開催日：2013年2月27日  
場所：臨床講義室 No.1  
参加者：医師1名，薬剤師14名，看護師18名  
講師：菅原 充広 他

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (  有  無 )
- ・ 業務の主な内容：

別紙「医薬品安全使用のための業務手順書」目次参照

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有  無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 医療安全管理室との情報交換・情報収集 (1回/週)
- ・ 投薬・注射WGにて医薬品の安全使用・管理について検討 (1回/月)
- ・ 医薬品適正使用委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に活用している。
- ・ 休薬期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表作成・配布
- ・ 処方に関する疑義照会およびプレアポイド事例をまとめ、リスクマネジメント委員会等の会議にて報告し、医薬品の安全使用の喚起をおこなっている。(1回/月)

医薬品安全  
使用のための  
業務手順書

2013



北里大学病院  
Kitasato University Hospital

# 目 次

第1章	医薬品の採用	1
1-1.	医薬品採用基準	
1-2.	採用医薬品情報の作成・提供	
第2章	医薬品の購入	5
2-1.	医薬品の発注	
2-2.	在庫管理と伝票管理	
第3章	医薬品の管理	6
3-1.	医薬品の管理（保管管理）	
3-2.	医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）	
3-3.	規制医薬品（麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、劇薬）の管理	
第4章	医薬品情報の収集・管理・提供	16
4-1.	医薬品情報の収集・管理および専門的評価	
4-2.	医薬品情報の提供	
4-3.	医薬品副作用情報の管理	
第5章	処方	25
5-1.	処方オーダの方法	
5-2.	処方オーダ入力時の注意点	
	・ 隔日投与	
	・ 粉碎指示	
	・ 一包化指示	
	・ 簡易懸濁法	
	・ 処方発行後の修正・削除	
5-3.	問い合わせが多い処方の具体例	
5-4.	処方時の注意	
	・ 名称が類似した医薬品	
	・ 連日投与を行わない医薬品	
	・ 休薬期間のある医薬品（経口抗悪性腫瘍薬・抗凝固薬・抗血小板薬）	
5-5.	注射用抗菌薬投与に関するフローチャート	
5-6.	食物アレルギーと関連のある医薬品一覧	
第6章	指示だし・指示受け	46
6-1.	指示だし・指示受け手順	
6-2.	口頭による指示だし・指示受け手順	
6-3.	指示注射ワークシートについて	
第7章	調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給	52
7-1.	処方監査・疑義照会・調剤	
7-2.	調剤薬の交付・服薬指導	
7-3.	薬品交付後の経過観察	
7-4.	注射せんに基づく病棟・各部門への供給	
7-5.	定数配置薬の病棟・各部門への供給	
7-6.	病棟・外来での常備薬の運用	
7-7.	軟膏等略名一覧	
第8章	与薬業務	58
8-1.	与薬基準	
8-2.	投与経路の種類	
8-3.	与薬の実態	
	経口与薬（胃管からの与薬含む）	
	・ 簡易懸濁法	
	注射による与薬	
	・ 溶解液・希釈液の限定	



	・点滴静脈注射の投与速度	
	・インラインフィルターの使用	
	・輸液セット等の使用	
	・配合変化	
8-4.	看護師の静脈注射実施に関する基準	
8-5.	カラーシリンジ	
8-6.	CVポート運用フローの実際	
8-7.	薬物血中濃度モニタリング (TDM) の実施	
8-8.	薬物血中濃度の速報基準 (パニック値) 対応フロー	
<b>第9章</b>	<b>服薬管理</b> .....	<b>89</b>
9-1.	薬剤師による薬剤管理指導	
9-2.	投与後の経過観察と服薬指導記録作成	
9-3.	外来患者からの相談	
<b>第10章</b>	<b>持参薬の取り扱い</b> .....	<b>94</b>
10-1.	患者情報の収集・管理・活用	
10-2.	入院時の使用医薬品の確認	
10-3.	持参薬確認手順	
10-4.	「お薬手帳」の取扱いについて	
<b>第11章</b>	<b>トラブル対応</b> .....	<b>97</b>
11-1.	注射薬の誤注入時の対応	
11-2.	血管外漏出に注意すべき注射剤について	
11-3.	血管外漏出時・漏出疑い時の処置	
11-4.	副作用報告の方法	
11-5.	副作用情報の参照方法	
11-6.	院内外副作用発現報告フロー	
11-7.	麻薬破損・紛失対応	
<b>第12章</b>	<b>緊急時・集中治療領域にて使用する医薬品</b> .....	<b>108</b>
12-1.	ICUにおける注射薬製剤・投与方法	
<b>第13章</b>	<b>ハイリスク医薬品</b> .....	<b>114</b>
13-1.	安全使用において特に注意が必要な主要医薬品 (経口剤・外用剤)	
13-2.	安全使用において特に注意が必要な主要医薬品 (注射薬)	
13-3.	抗がん薬	
13-4.	化学療法・免疫抑制療法によって発生するB型肝炎ウイルス関連 肝炎の防止について	
13-5.	カリウム製剤	
13-6.	ワルファリンカリウム	
13-7.	インスリン	
13-8.	麻薬	
13-9.	向精神薬	
13-10.	筋弛緩薬	
<b>第14章</b>	<b>特殊医薬品</b> .....	<b>145</b>
14-1.	放射線医薬品	
14-2.	造影剤の副作用について	
14-3.	造影剤の分類	
14-4.	院内特殊製剤	
<b>第15章</b>	<b>各科特別マニュアル</b> .....	<b>153</b>
15-1.	小児科	
15-2.	手術・麻酔部門	
15-3.	救急部門・集中治療室	
<b>第16章</b>	<b>他施設との連携</b> .....	<b>156</b>
16-1.	薬-薬連携	
16-2.	他施設からの問い合わせ等に関する体制整備	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 100 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器の取扱いについて 閉鎖式保育器の取扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて 除細動器の取扱いについて 人工心肺装置について など</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定 (有・無)</li><li>保守点検の主な内容： 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電機的安全性点検) 終了時点検 (作動点検、外観点検) 日常点検 (ラウンド点検、作動点検、使用法確認) 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等)</li></ul>	